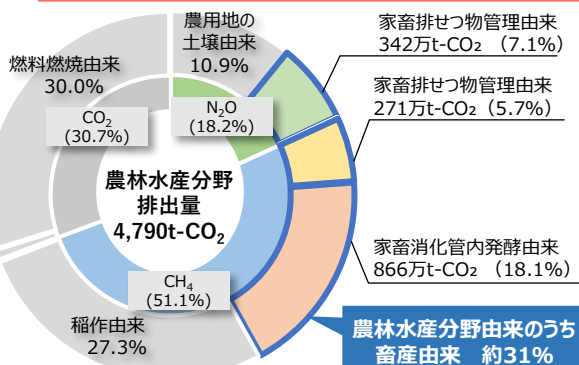


畜産でも温室効果ガス（GHG）を削減しましょう

畜産で取り組む理由



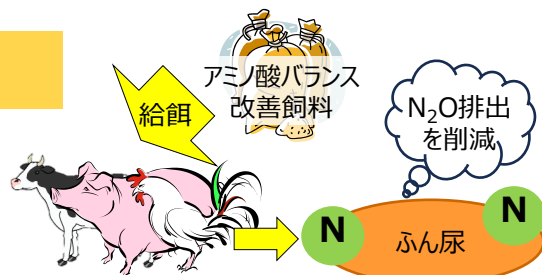
(2022年度実績)

地球温暖化への対応が世界的な課題となり、国民の関心も高まっています。農林水産分野における温室効果ガス（GHG）の総排出量の約3割を占める畜産分野においても排出削減を進めていく必要があります。

畜産での主な取組

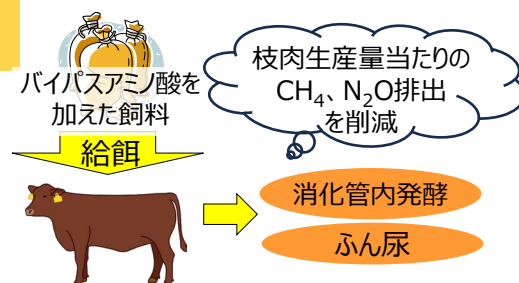
アミノ酸バランス改善飼料の給与

- ▶ 家畜排せつ物から排出される一酸化二窒素を削減します。



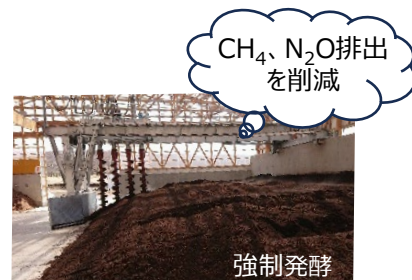
肉用牛へのバイパスアミノ酸の給与

- ▶ アミノ酸を効率良く吸収させることにより、枝肉生産量当たりのメタン、一酸化二窒素の排出を削減します。



家畜排せつ物の管理方法の変更

- ▶ 家畜排せつ物を強制発酵させることなどにより、メタン、一酸化二窒素の排出を削減します。



GHG削減に資する飼料添加物※の給与

- ▶ 家畜の消化管から排出されるメタンを削減します。

※ GHG削減効果や安全性が認められた「3-ニトロオキシプロパノール（3NOP）」及び「カシューナッツ殻液」が活用できます。



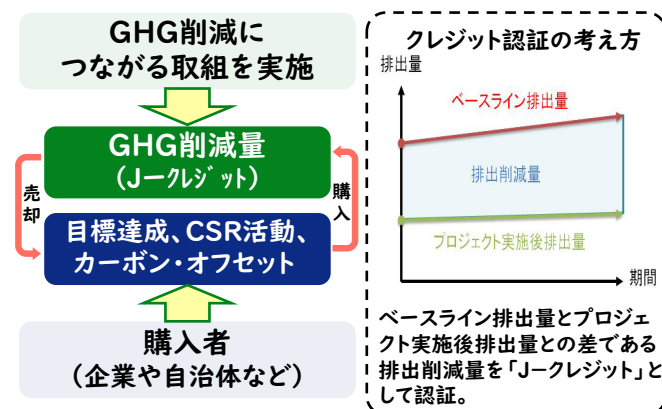
活用できる制度は裏面をご確認ください

活用できる制度等

GHG削減の取組には、以下の制度等が活用できます。

J-クレジット制度

国がGHG削減量をクレジットとして認証し、取引を可能とする制度です。畜産農家もクレジットの販売により収入が得られます。



個別の削減活動を取りまとめて1つのプロジェクトとして登録できる「プログラム型」の活用が効果的です。

「プログラム型」を今すぐチェック！



みどり認定

「みどりの食料システム法」に基づき、GHG削減の取組の認定※を受けると、必要な投資への低利融資や、国庫補助事業での優先採択等のメリットがあるほか、生産物の消費者へのPRにもつながります。

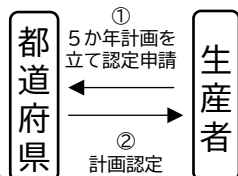
※ 表面の取組のほか、早期出荷なども認定対象になります。

<認定事例>

- ✓ アミノ酸バランス改善飼料を肉用牛に給餌し、家畜排せつ物由来のGHGを削減。
- ✓ 「地球にやさしいお肉」としてブランド化。



都道府県に申請して認定を受けられます。詳しくは以下の「認定の手引き」をご参考ください。



「手引き」を今すぐチェック！



畜産クラスター実証事業

畜産クラスター協議会で行うGHG排出削減の取組の実証を支援します。

<取組例>

- ✓ アミノ酸バランス改善飼料やバイパスアミノ酸の給与試験
- ✓ 早期出荷による肥育期間短縮の調査
- ✓ 飼養管理技術向上のための研修会の開催



<補助対象経費>

試験用飼料代や試験協力費、血液分析費、獣医師等謝金、研修会開催費など
(定額:補助上限240万円)

<取組主体>

畜産クラスター協議会

最新情報を今すぐチェック！



環境負荷低減の取組の「見える化」

(本年度中の運用開始を目指して現在検討中)

生産に関するGHGの排出と吸収を定量的に算定し、削減への貢献の度合いに応じ星の数で分かりやすくラベル表示できます。

農産物で先行して運用中ですが、畜産物でも、本年度中の運用開始を目指しており、環境負荷低減の取組の「見える化」を推進していきます。



見る × 選べる
≡
みえるらべる

店頭のポップに「みえるらべる」を提示して販売されるなど活用が進んでいます。

